

## リライト伊勢物語

### —和歌から物語を作って、和歌の読解のポイントを理解しよう—

- 1 科目名 古典B
- 2 単元名 物語（一）
- 3 教材名 伊勢物語（第一段「初冠」、第四段「月やあらぬ」）
- 4 単元の内容

単元の目標 と評価規準 ・評価方法	<p>① 単元の目標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ア 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉えようとする。（関心・意欲・態度）</p> <p>イ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉える。（読む能力）</p> <p>ウ 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。（知識・理解）</p> </div> <p>②単元の目標設定の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒にとって和歌の解釈は難しく、主体的な読解を避ける傾向がある。しかし、古典読解において和歌の解釈は避けて通るわけにはいかない。</li> <li>・「伊勢物語」は歌物語であるとともに恋という人間普遍のテーマが扱われており、さらに比較的平易な言葉・構成で書かれているため、場面設定や心情等が理解しやすく、和歌解釈のポイントをつかみやすい教材である。</li> <li>・和歌から物語を創作することを通して、和歌の表現をいかに物語に反映させるかを考えさせることによって、和歌解釈の基本を理解させ、今後に学ぶ和歌の入った作品の学習に繋げていきたい。</li> <li>・また、高校2年生は文法事項について一通り学習を済ませてはいても、理解はあやふやであるため、本文中の生きた形で文法事項を理解することは難しいことである。</li> <li>・実際に助動詞の知識を活用し、自分の作った物語を古文にリライトすることによって、併せて助動詞の知識の定着を図りたい。</li> </ul> <p>③中心となる学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「月やあらぬ」の和歌を元に自由に物語を創作することによって、歌物語の特性を理解するとともに、和歌と場面設定との関係を把握し、解釈するポイントを理解する。</li> <li>・擬古文を作成させることによって、文法事項を実際に使い、理解を深める。</li> </ul> <p>④言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは「初冠」を用いて、地の文の場面設定と和歌の表現とが密接に関連していることを理解させようと考えた。（地の文→和歌）</li> <li>・その上で「月やあらぬ」を用いて和歌から物語を創作する活動を通して、和歌の言葉をどう物語に反映させるかを考えさせることによって、場面設定との関連を考えながら和歌の解釈をするポイントをつかませようと考えた。（和歌→地の文）</li> <li>・また、擬古文を作成させることによって、文法事項に習熟させようと考えた。</li> <li>・上記の活動を通して、古典常識にも興味を持たせ、物語世界をいきいきと感じ取らせたい。</li> <li>・擬古文の作成が困難な場合は、物語の創作に留めてもよい。</li> </ul> <p>⑤評価</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 35%;">評価規準</th> <th style="width: 30%;">評価方法</th> <th style="width: 25%;">状況Cの生徒への対応</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;">                             関心 ・ 意欲 ・ 態度                         </td> <td style="vertical-align: top;">                             ・和歌と場面設定の関連について友人と相談したり、質問したりしながら物語を創作しようとしている。                         </td> <td style="vertical-align: top;">                             観察(机間指導) (発言、交流の様子) 点検(ワークシート)                         </td> <td style="vertical-align: top;">                             ・グループ内で話し合わせ、よい作品を発表させることで、ヒントとさせる。                         </td> </tr> </tbody> </table>		評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応	関心 ・ 意欲 ・ 態度	・和歌と場面設定の関連について友人と相談したり、質問したりしながら物語を創作しようとしている。	観察(机間指導) (発言、交流の様子) 点検(ワークシート)	・グループ内で話し合わせ、よい作品を発表させることで、ヒントとさせる。
	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応						
関心 ・ 意欲 ・ 態度	・和歌と場面設定の関連について友人と相談したり、質問したりしながら物語を創作しようとしている。	観察(机間指導) (発言、交流の様子) 点検(ワークシート)	・グループ内で話し合わせ、よい作品を発表させることで、ヒントとさせる。						

	読む能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>和歌と場面設定との関連を考えて、和歌を解釈している。</li> <li>文章に登場する人物、状況、心情などを表現に即して想像し、読み味わっている。</li> </ul>	観察(机間指導) (発言、交流の様子) 点検(ワークシート)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアでの交流を通してポイントを整理させる。</li> <li>板書に図式化するなどして、教師が説明する。</li> </ul>
	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>和歌の修辞法や当時の文化、習慣について理解している。</li> <li>既習の文法事項や古語を活用している。</li> </ul>	観察(机間指導) (発言) 点検(ノート、ワークシート)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の既習範囲、文法書、国語便覧や辞書の該当箇所を指摘し、助言する。</li> </ul>
成果と課題	<p>①グループ活動を行うことで、相談しながら楽しんで物語の創作を行えた。また、作品の完成に近づくに従って、語彙や文法、古典常識に関するより細かな質問が出るようになった。</p> <p>②創作上の指示が少なかったため、「月」や「春」を物語に反映させずに創作した生徒が多くいた。しかし、かえって和歌の言葉の一つ一つが重要で、物語(地の文)と緊密に関係していることに気付かせることができた。</p> <p>③この後に行った蜻蛉日記「鷹」、枕草子「二月つごもりごろ」の和歌の解釈では、地の文との関連に目を向け、自分の力で解釈しようという意欲が感じられる生徒が増えた。</p> <p>④現代語を古語に改めることは非常に難しく、語彙に関する質問には困った。簡単な文や言葉に言い換えさせたり、漢語をそのまま使わせたりして、文法の方に気を付けさせるようにした。</p>			
アドバイス及び留意点	<p>①物語の創作においては、生徒たちは詠歌の経緯(筋書き)だけに注意が向いてしまい、和歌の「月」と「春」を反映させることを見逃しがちである。物語の創作を終えた時点で、グループの優秀作品を発表させ、詠歌の経緯(筋書き)に加えて、「月」と「春」の記述があるかを評価させるとよい。</p> <p>②擬古文に書き直しさせる際には、創作した物語を易しい言葉や文章に言い換える必要がある。また、表現したいことを古語に置き換えることが難しい場合もある。その際は、机間指導で個々に助言する必要がある。</p> <p>③現代短歌・俳句で行ってみるのもおもしろそうである。</p>			
小中学校との系統性	<p>①(中学・3年・伝統的な言語文化) (ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。 (イ) 古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。</p> <p>②(中学・2年・伝統的な言語文化) (イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。</p>			

## 5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○「初冠」の場面設定を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「初冠」の場面設定を把握する。【イ】</li> <li>男と姉妹の人物像について具体的に想像し、男が恋に落ちた理由を考える。【イ】</li> <li>時代背景や古典常識を理解する。【オ】</li> </ul> *留意点 <ul style="list-style-type: none"> <li>男の行動を中心に内容を整理させる。</li> <li>時代背景や古典常識については適宜解説する。</li> <li>ペアワークを行わせる。</li> </ul>	5W1Hに沿って場面設定を読み取っている。【読】 ↓ 発問 観察(発言・交流の様子) (机間指導)	ペアでの交流を通してポイントを整理させる。 ↓ 次時の「前時の復習」の際に指名して、確認する。
2	○「初冠」の和歌について場面設定との関連を	<ul style="list-style-type: none"> <li>「春日野の…」の和歌について場面設定との関連を考えながら、解釈する。【イ】</li> <li>「みちのくの…」の和歌について、「春日野の…」の和歌との共通点に留意して</li> </ul>	和歌の表現と関連する箇所を指摘している。【読】 ↓	解釈の難解な部分について解説を加える。 ↓

	考えながら、 解釈する。	解釈する。【イ】 ・最後の一文を書いた作者の意図を考える。【ウ】 *留意点 ・難解な部分を解説する。 ・修辞法や句切れの解説をする。 ・ペアワークを行わせる。	発問 観察(発言・交流の様子) (机間指導)	次時の「前時の復習」の際に指名して、確認する。
3 (本時)	○「月やあらぬ」の和歌を解釈し、各自で物語を創作し、擬古文を作成する。	・「月やあらぬ」の和歌を解釈する。【イ】 ・和歌の詠歌背景を想像し、物語を創作する。【イ】  ・創作した物語から擬古文を作成する。【ア】  *留意点 ・学習プリントを用いる。 ・グループワークを行い、発想を刺激し合わせる。 ・仕上がらない時は宿題とする。	詠歌に至る経緯、登場人物の設定が具体的に 行われている。【読】 ↓ 観察(発言・交流の様子) (机間指導) 既習の文法事項や古語を 活用している。【知】 ↓ 観察(机間指導)	各グループの優れた作品を 発表させ、ヒントとさせる。  既習教材の表現や文法書等 を参照させ、助言する。 ↓ 学習プリントの状況によっ て、個人指導する。
4	○「月やあらぬ」の場面設定を把握し、自作の作品と比較する。	・男女の境遇を把握し、男が逢いにいけない事情を考える。【イ】 ・自作の物語と比較し、違いをまとめる。【エ】  *留意点 ・「大后」、「人」について解説する。 ・適宜、ペアワークを行わせる。	「月」と「春」の設定の仕方、男女の境遇、詠歌に至る経緯について比較し、違いを整理している。【読】 ↓ 発問 観察(発言) (机間指導)	ペアでの交流を通してポイント を整理させる。 ↓ 自作の物語との違いについて感想を 求める。
5	○他の解釈と比較し、授業との解釈の違いや発見した古典常識についてまとめる。	・俵万智「恋する伊勢物語」を読み、授業との解釈の違いや発見した古典常識についてまとめる。【ウ・オ】 *留意点 ・歴史的背景を説明し、「本意にはあらで」や「ほかに隠れにけり」の事情を理解させる。 ・「追ひつきて」の解釈の違いに留意させる。 ・「初冠」「文の作法」について整理させる。 ・ペアワークを行わせる。	解釈の違いや発見した古典常識についてノートに整理している。【知】 ↓ 観察(発言・交流の様子) (机間指導)	ペアでの交流を通してポイントを整理させる。 ↓ 必要に応じて個人指導を行う。

## 6 第3時の学習指導案

本時の位置	3時間目(全5時間)		
本時の学習目標	ア 和歌に込められた心情や使われている題材に着目し、物語を創作している。(読む能力) イ 既習の文法事項や古語を活用している。(知識・理解)		
事前の準備	①教科書の予習をしないことを指示し、和歌と脚注のみワークシートにプリントする。 ②ペア、グループで活動することに抵抗をなくするため、日頃の授業にも積極的に導入する。 ③事前に小テストなどを行い、文法事項(助動詞)を復習させておく。		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 5分	□既習内容と本時の目標を確認する。	①「初冠」の和歌と地の文との関連を確認する。	・「春日野」「しのぶの乱れかぎりしられず」という表現と地の文との関連について確認する。 ・「月やあらぬ」の和歌から物語を創作することを

<p>展開 40分</p>	<p>□「月やあらぬ」の和歌を解釈する。</p> <p>□和歌から物語を創作する。</p> <p>□創作した物語から擬古文を作成する</p>	<p>②脚注を利用して、解釈する。</p> <p><b>③各自で和歌から物語を創作しよう。</b></p> <p>④6人の班で、互いの物語を批評し、班で最も優れた作品について、選んだ理由とともに発表する。</p> <p>⑤友人の作品・意見を参考にして、推敲する。</p> <p><b>⑥創作した物語を擬古文に改めよう。</b></p>	<p>確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「変わってしまった月や春」に対し、「自分は変わっていない」と感じる事となった事情を考えさせる。</li> <li>・反語の「や」、句切れについて確認する。</li> <li>・プリントを配布し、創作の方法・手順を説明する。</li> </ul> <p><b>目標アに対する評価規準と評価方法</b></p> <p>〔規準〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詠歌に至るまでの経緯、登場人物の設定が具体的に行われている。</li> <li>・「月」や「春」が設定に反映されている。</li> </ul> <p>〔方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記述・発言の観察（机間指導・発表）</li> </ul> <p>〔状況Cの生徒への手立て〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代小説やTVドラマなどを想起させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典常識上あまりにかけ離れたものについては、正しい古典常識を解説する。</li> </ul> <p><b>目標イに対する評価規準と評価方法</b></p> <p>〔規準〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談したり、質問したりしながら、既習の文法事項や古語を活用している。</li> </ul> <p>〔方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の点検（机間指導）</li> </ul> <p>〔状況Cの生徒への手立て〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の既習教材の表現や文法書を参照させたりして、助言する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間が不足する場合は宿題とする。</li> <li>・文法事項については後で添削することを伝える。</li> </ul>
<p>まとめ 5分</p>	<p>□創作を通して気付いたことを整理する。</p> <p>□次時の連絡</p>	<p>⑦「初冠」と比較し、創作してみた感想をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌と地の文との関連の理解が、歌物語を作ってみることでより深まることを確認する。</li> <li>・原文と創作作品との違いについて考えることを予告する。</li> </ul>